

日本鐵鋼協會記事

◎理事會

大正十一年七月十九日(火曜日)午後四時より本會事務所に於て理事會を開き左の事項に就きて協議せり。

會議事項

- 一、入退會者に關する件
- 一、原稿料に關する件

- 一、本會々誌「鐵と鋼」の編輯人兼發行人名義變更の件(可決)

現 編輯人兼發行人

行方 畝三郎

新 編輯人兼發行人

大矢 喜兵

- 一、會員名簿新調に付通知狀に關する件

- 一、俵博士歸朝に付講演會開催の件 (可決)

- 一、スタイル・ウント・アイゼンと交換の件 (可決)

- 一、其他會務に關する件

當日出席者は香村小録君、鹽田泰介君、河村驍君等なり。

◎編輯會

大正十一年七月十九日午後五時より本會事務所に於て編輯會を開き、會誌第八年第八、九號の原稿を選定せり。當日出席者は川上義弘君、室井嘉治馬君、井上克己君等なり。

◎入退會者

前記理事會に於て入退會を承認せられたる會員左の如し。

入會者 (住所及職業)

麴町區平河町二ノ一、明電會員

准員 安田 德治

退會者 (住所及職業)

名古屋市名古屋兵器製造所、陸軍砲兵大尉

正員 岡元 三郎

北海道札幌郡、登別製鐵所員

同 栗林 德一

埼玉縣川口町、永瀨工場

同 小林 敏州

吳海軍工廠製鋼部、工學士

同 山崎 章

大阪砲兵工廠

准員 廣瀨 勳

府下蒲田村新瀉鐵工所

同 平林 寬雄

釜石町田中製鐵所

同 鈴木 十内

山口縣下松町笠戸工場

同 岡本 猛雄

◎轉居

前號報告後轉居者の新住所左の如し。

長崎市錢座町一ノ六〇

田村 元治

芝區金杉新濱町一、芝浦製作所内

納富 磐一

福島縣若松市堅三日町三三

中野 弘策

芝區白金三光町二六〇

川野 留吉

三重縣志摩郡鳥羽町鳥羽造船工場

田村 榮太郎

下谷區竹町十二

村田 榮太郎

兵庫縣武庫郡精道村打出

工藤 治人

牛込區筑土八幡二六、高橋諒一方

田中 德五郎

大阪府市西區島町北港住宅二二一

岡 庸三

盛岡市山岸町十七番戶

齋藤 長吉

牛込區市ヶ谷谷町五五

松屋 爲文

市外西巢鴨町宮仲二六七〇

伊藤 謙三

麴町區永樂町二ノ一、大川田中ビルディング内

日本鋼管會社東京出張所

日本橋區本革屋町五、日本製鋼所

市外中野町字上の原八六一

大阪砲兵工廠

府下荏原郡平塚村戸越六二〇

市外大崎町居木橋五三二

室蘭市母戀北町社宅三六〇號

岐阜縣吉城郡船津町、三井神岡鑛業所

府下荏原郡大井町原宿六三六〇

北海道室蘭區茶津一〇七號

市外東鴨町池袋九四八

府下荏原郡入新井町大字不入斗一三二七、能村方

四谷區麴町十三丁目十五番地

室蘭區輪西日本製鋼所製鐵部

麴町縣區上六番町四二

◎倭博士の歸朝

昨年夏以來歐米の製鐵界を視察せられたる本會々長倭國一君は、去る七月二十四日晚香港より横濱着の加奈陀太平洋汽船、エムプレス・オブ・ロシア號にて無事歸朝せられたり。倭博士曰く、

『先づ旅程は、昨年六月米國に至り、夫れより英、獨、佛、スカンヂナビヤ半島、其他歐洲諸國を歴遊し、再び米國を経由して歸國せるが、旅行中最も深く感じたる事は、第一米國の不景氣復活、第二に英國の工業不況、第三に獨逸の製鐵業隆盛等なり。』

轉林篤夫	比企彰	久芳道雄	林 狷之助	山田正榮	豐島駒吉	古谷秀三	柴田 務	大久保立	中川誠五郎	森 秀雄	黒部義夫	藤岡友治	中野義雄	中村幸雄
------	-----	------	-------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------

昨年米國に着ける頃は多くの製鐵工場は閉鎖若くは休業せるに係はらず、一ヶ年後の今日は殆ど復活し、彼の無盡藏の原料品の供給に依りて、今後一層發達せんとする状態には一驚を喫せり。

次に英國に於ては石炭並に鐵鑛を産出せるが依然として、工場の閉鎖せるもの多く氣の毒なる状況なり。

最後に獨逸は大戦に依り鐵鑛産出を以て有名なるロートリゲン州を佛國に分割せるが、勝氣一徹なる獨逸國民は上下を擧げて、特有の製鐵業の復活を謀れる其熱心努力に對しては、蓋し敬服の外なしとす云々。』

因に卷頭會告の通り、本會に於ては來る九月二十七日（水曜日）午後六時半より倭博士を聘して「歐米製鐵事業視察談」に就きて御講演を願ふこととせり。